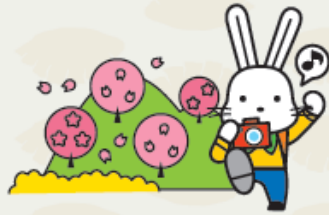


花見山



花見山は、春になると梅・ハナモモ・桜・レンギョウ・ポケ・モクレンなどの花々が次々と咲き競い、毎年多くの来園者を魅了しています。写真家の故・秋山庄太郎



氏が毎年のように訪れ、「福島に桃源郷あり」と絶賛したことにより、全国に知られるようになりました。花見山は、花木農家が点在する地域で、中でも花見山公園は「きれいな花をたくさんの人に見て欲しい」との思いから、昭和34年頃より初代園主から代々私有地を一般開放されています。天気の良い日には、吾妻連峰や吾妻山の雪うさぎを見ることができ、美しい風景が眼下に広がります。

古関裕而



古関裕而(本名:古関勇治)は、明治42年福島市大町に生まれ、昭和5年9月に日本コロムビア(株)に作曲家として入社、以来、作曲活動を継続し、数々の歴史的作品を残しました。東京オリンピックの選手入場行進曲「オリンピック・マーチ」や夏の甲子園の大会歌「栄冠は君に輝く」、プロ野球阪神の「六甲おろし」、巨人の「闘魂こめて」などなど。作曲作品数は、約5,000曲にもおよび、スポーツ・ラジドラマ・歌謡曲・演劇・校歌・社歌等、多岐にわたっています。昭和54年4月には福島市名誉市民第一号となり、その功績と栄誉をたたえられています。

また、2020年春の連続テレビ小説として放送されることが決定しました。

ふくしま餃子の会 - 設立からの流れ

平成12年11月3日「商店街の日」の町おこしイベントとして、街なか広場で餃子の無料試食会が行われた。これは「ふくしま文化村」の呼びかけによるもので、市内11店舗の餃子店が参加した。

平成13年からは、餃子店の店主による餃子講習会が開催され、各回応募者多数で、抽選で参加者が決められたほどだった。

平成13年には、掲載店23店の「ふくしま餃子MAP」が初めて作成された。餃子の無料試食会は、その後毎年11月3日「商店街の日」のイベントとして、行われ、街なか広場には、過去にない長蛇の行列ができた。福島市民の皆さんの餃子に対する反響の多さに手ごたえを感じ、平成13年の餃子の無料試食会参加店のメンバーの有志数名によりふくしま餃子の会設立準備会が作られ、会則や今後の活動計画を話し合った。「餃子を福島の新しい名物として伝説と歴史を生み出すため」平成15年3月11日14店が加盟してふくしま餃子の会が発足した。



開市風景：福島市提供



戦後、満州から引き上げてきた人々が、そこで味わった餃子を基に試行錯誤繰り返し、作り上げた。

フライパン一枚で焼くことから独特な形状の「円盤餃子」になったり鉄鍋一枚でストレートな餃子になったりと、戦後の開市で生計をたてるために飲食業を営んでいた人々から、徐々に広まっていったと言われています。ふくしま餃子の歴史はそこから始まりました。昭和30年代後半には、サラリーマンの勤め帰りに餃子でお酒を飲み、その日の疲れを癒し餃子を「明日への活力源」としていました。



羽黒神社に仁王門があり、安置されていた仁王様の足の大きさにあった12mのわらじを作って奉納したことが由来とされ、江戸時代から400有余年にわたり受け継がれています。

2足あるので24=もりんが持っている餃子の数も24個となっております!

※餃子の会加盟店の円盤餃子の数は各店舗異なります。